ドイツ語とオランダ語の右枠内における動詞群の対比

@yukade
2010.12.4 TwiFULL 札幌言語学ミーティング第5回

1. はじめに

オランダ語は節の終わりに動詞が複数来た場合、会話語と文章語で動詞群の語順の違いが生じる。しかし、ドイツ語は文章語、会話語で違いが見られない。このことについて、現代ドイツ語、現代オランダ語で対比をし、その後歴史的観点から見ていく。尚、今回は従属節内の右枠に動詞が2つ来た場合のみに限定する。

2. ドイツ語、オランダ語の時代区分

様々な説が出ているが、本発表では言語学大辞典の定義にのっとることとする。

- 古高ドイツ語(Althochdeutsch, Ahd.)：750～1050 年頃[1]
- 中高ドイツ語(Mittelhochdeutsch, Mhd.)：1050～1350 年頃
- 初期新高ドイツ語(Frühneuhochdeutsch, Fnh.)：1350～1650 年頃
- 新高ドイツ語(Neuhochdeutsch, Nhd.)：1650 年頃～現代

- 古オランダ語(Oudnederlands) ：？～1200 年頃[2]
- 中期オランダ語(Middelnederlands)： 1200 年～1637 年頃
- 新期オランダ語(Niuwnederlands)：1637 年頃～現代

以下、ドイツ語は新高ドイツ語のことを指し、オランダ語は新オランダ語のことを指す。

3. ドイツ語、オランダ語における従属節について

ドイツ語、オランダ語では、主文の語順は SVO であるが、従属節の中では、SOV になる。

(1a)独：ich lerne heute deutsch, weil morgen ich eine Prüfung <u>ablegen muss</u>.（作例）
接　　不定　定
(1b)蘭：ik leer vandaag duits,omdat morgen ik een examen <u>moet afleggen</u>.（作例）
接　　定　不定
日：私は今日ドイツ語を勉強する、なぜなら明日試験を受けなければならないからだ。

この場合、ドイツ語では主節である ich lerne heute deutsch が SVO の語順になっているのに対し、従属接続詞である weil(英：because）を用いた従属節である weil morgen ich eine Prüfung ablegen muss.は SOV の語順となっている。今回は従属節内の動詞群を主に扱う。

4. 枠構造について

文の二番目（左枠）に定動詞を置き、節の終わり（右枠）に定動詞に支配された不定詞や過去分詞を置き、枠を形成することを枠構造という。この枠構造は、現代英語以外の西ゲルマン語、すなわちドイツ語、オランダ語、ルクセンブルク語、アフリカーンス語、フリジア語に見られる統語構造である。枠構造は、古英語には見られたのだが（例：古英語：ic <u>hæbbe</u> þā bōk <u>āwriten</u>.[3] 英：I have

[1] 出典：橋本郁雄, 1989,「ドイツ語」,『言語学大辞典 第2巻 中 さ-に』, pp.1206
[2]桜井隆, 1988,「オランダ語」,『言語学大辞典 第1巻 上 あ-こ』, pp.1080
[3]出典：古川尚雄,「英独比較語学」, pp. 283-287

written the book.)、現代英語ではその統語構造が失われた。

(2a) 主節:Morgen/ muss/ ich eine Prüfung /ablegen.(作例)
前域　左枠　中域　右枠
(2b) 従属節:weil/ morgen ich eine Prüfung/ ablegen muss.(作例)
左枠　中域　右枠

左枠より前に来る要素を「前域」、左枠と右枠の間に来る要素を「中域」、枠外配置で右枠より後に来る要素を「後域」となる。

また、枠構造の成立に関して、河崎(1994)は以下のように示している。

図 1[4]

枠構造	ドイツ語	オランダ語	フリジア語	英語	スウェーデン語	ノルウェー語	アイスランド語
最古の文献において	○	○	○	△	△	△	×
現代語において	◎	◎	◎	×	×	×	×

(◎=文法化されている, ○=頻度が高い, △=時々見られる, ×=ほとんど在証されない)

この表から、最古の文献においてもドイツ語、オランダ語の枠構造が高頻度で見られることがわかる。

5. 右枠内の動詞群の語順について

1. 節では、右枠内に動詞が複数ある場合に、動詞内での入れ替えが起きると述べた。しかし、動詞群が複数あれば毎回必ず語順の入れ替えが起こるわけではなく、定動詞によって、語順の入れ替えが起こりやすい、起こりにくいものがある。

図 2

	完了	受動	法助動詞＋分離動詞	法助動詞＋不定詞	使役
語順変化	○	○	○	×	×

5. 1. 右枠内で動詞群の語順が入れ替わりやすい場合

文章語、会話語で右枠内の動詞群の語順が入れ替わる文法要素として「完了」、「受動」、「話法の助動詞＋分離動詞」が挙げられる。

5. 1. 1. 完了

(3a) 独:Dass du während meiner Abwesenheit nicht nur gemalt hast.(文章語、会話語)
接　過分　定
(3b) 蘭:Dat je niet alleen geschilderd hebt.[5](会話語)
接　過分　定

[4]出典:河崎靖, 1994, 「統語変化の方向性」
5出典:"der Rosarote Panther kehrt zurück", Universal Pictures Switzerland, 2006. 36'44"

日：（私の不在の間に）君が絵を描いただけではないこと。

(3c) 蘭：Ik weet dat hij dat niet heeft gedaan.(Yolande, 2009, p.123)(文章語、正式な形)
接　　定　過分
日：私は彼がそれをしていないとわかっている。

５．１．２．受動

(4a) 独：Ich wusste nicht dass die Bank uebergefallen worde.[6]（文章語、会話語）
接　　過分　　定
日：私は銀行が襲われたと知らなかった。

(4b) 蘭：En je gilt dat onmiddellijk een dokter gehaald wordt.[7](会話語)
接　　過分　定
日：そしてすぐに医者に連れてこられることに君は悲鳴をあげる。

(4c) 蘭：Ik ben blij dat die ijver wordt aangemoedigt.(W.Haeseryn, K.Romijn, G.Geerts, J.de Rooij, 1997, 1068)(文章語、正式な形)
日：私はその熱心さが励まされることが嬉しい。

５．１．３．分離動詞

分離動詞の場合は、会話語で助動詞を用いる際に、オランダ語は助動詞が分離成分の間に割り込み、前置詞が分離する形となる。これは完了文においても同様の形となる。ドイツ語の場合は、分離せずにひとまとめにされたままになる。分離動詞はドイツ語とオランダ語の従属節内では、節の終わりに前置詞、その前に動詞成分がくる。

(5a) 独：Ich denke, dass du sofort gehen zurück.（作例）
接　　定　前

(5b) 蘭：Ik denk dat je onmiddellijk gaan terug.（作例）
接　　定　前
日：私はあなたがすぐに帰ると思う。

(6c) 独：Ich denke, dass du sofort zurückgehen muss.（文章語、会話語、作例）
接　　不定　　定

(6a) 蘭：Ik denk dat je onmiddellijk moet teruggaan.(文章語、正式な形、作例)
接　　定　不定

(6b) 蘭：Ik denk dat je onmiddellijk terug moet gaan.(会話語、作例)
接　　前　定　不定
日：私は君がすぐに帰らなければならないと思う。

(7c) 独：Ich habe gedacht, dass du sofort zurückgegangen hast.（文章語、会話語）
接　　前-過分　　定

(7a) 蘭：Ik heb gedanken dat je onmiddellijk heeft teruggegaan.(文章語、正式な形)
接　　定　前-過分

(7b) 蘭：Ik heb gedanken dat je onmiddellijk terug heeft gegaan.(会話語)
接　　前　定　過分

6　出典："der Rosarote Panther kehrt zurück ", Universal Pictures Switzerland, 2006. 18'34"
7　出典："My Fair Lady", Destinato Alla Vendita. 2009. 58'36"

日：私は君がすぐに帰らなければならないと思った。

オランダ語では、定動詞が不定詞の前にくる文章語の形が正式なものとされている。なお、ドイツ語は会話語、文章語において違いが見られない。ドイツ語とオランダ語では現在完了形を作る場合、英語とは違い(独)sein/haben(蘭)zijn/hebben の二種類ある[8]。上記の例文には載せてはいないが、sein/zijn の場合も haben/hebben の場合と同様の変化が見られる。

5．2．右枠内で動詞群の語順の入れ替わりが起きにくい場合

5．1．節では、会話語と文章語で動詞群の語順が入れ替わる例を見てきた。しかし先述したように、語順の入れ替えが起こりにくい定動詞がある。それは「使役」と「話法の助動詞＋不定詞」の形である。この2つは、(3b)(4b)の例文のように定動詞を後ろに配置するのは、非文ではないものの、稀な形とされている。ドイツ語においては、(3c)(4c)の形同様に、定動詞が不定詞の後ろにくる形となり、会話語、文章語において違いが見られない。

5．2．1．話法の助動詞＋不定詞

(8a) 独：Allerdings habe ich danoch eine Frage, die nur Sie beantworen können. (文章語、会話語)
関　不定　定

(8b) 蘭：Ik heb een vraag die alleen u kunt beantwoorden.[9]（文章語　、会話語、正式な形）
関　定　不定

(8c) 蘭：Ik heb een vraag die alleen u beantwoorden kunt. (会話語、稀、作例)
関　不定　定

日：私はあなたにしか答えられない質問がある。

ただし低地ドイツ語では、オランダ語と同じ語順のものがある。

(9a) 低独:dass wir ihn müssen retten.
接　定　不定

(9b) 独：dass wir ihn retten müssen.
接　不定　定

(9c) 蘭：omdat we hem moeten redden.(Werner Abraham, 2005, pp.466)
接　定　不定

日：なぜなら、私たちは彼を救わなければならない。

5．2．2．使役文

(10a) 独：Ich sage es Ihnen, wenn Sie mich nur aussprechen lassen.（文章語、会話語、正式な形）
接　不定　定

(10b) 蘭：Ik zeg het, baas, als u me laat spreken.(文章語、会話語)[10]
接　定　不定

(10c) 蘭：Ik zeg het, baas, als u me spreken laat.(会話語、稀、作例)
接　不定　定

日：もしあなたが私に話させるなら、私はあなたに言う。

---

[8] 英語の場合だと、be/have になる。

9　出典："der Rosarote Panther kehrt zurück", Universal Pictures Switzerland, 2006. 39'17"

[10] 出典："My Fair Lady", Destinato Alla Vendita. 2009. 52'04"

6. 枠外配置について

オランダ語は前置詞句においてのみ、右枠の外へと移動することが出来る。この移動は会話語、文章語関係なく行われる。ドイツ語に関しては、会話語ではときおり用いられるようであるが、文章語においてはあまり見られない。枠外配置をする利点として、中域が長い文の場合に枠外配置をすることによって、文をすっきりさせ、聞き手に理解しやすいことが挙げられる。オランダ語の場合では、中域が短い場合にでも枠外配置が頻繁に起こる。

(11a) 独:ich bin <u>um 28. 5. 1987</u> geboren.（文章語、会話語、作例）
前句

(11b) 蘭:ik ben <u>om 28.5.1987</u> geboren.（文章語、会話語、作例）
前句

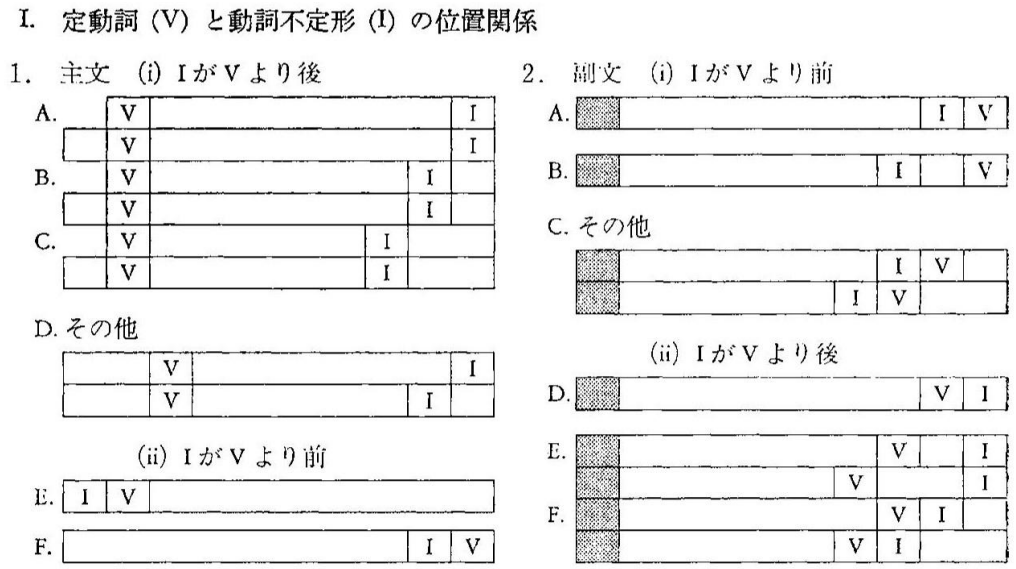
(11c) 蘭:Ik ben geboren <u>om 28. 5. 1987</u>.（文章語、会話語、作例）
前句

日:私は 1987 年 5 月 28 日に生まれた。

7. 古高ドイツ語、中高ドイツ語における枠構造の動詞群の語順

今でこそドイツ語の動詞群の語順の入れ替えは、オランダ語のように自由性があまりなくなっているが、過去の語順においては自由な形が多かった。斎藤(1994)では、古高ドイツ語の動詞の語順は以下のパターンがあると述べている。

図 2[11]



中高ドイツ語においても、動詞群の語順は比較的自由であった。古高ドイツ語にも見られたが、従属節の文末にくる動詞群が2つある場合に、右枠内では今のオランダ語の文章語と同じ語順であったものも数多く見られた。（中高独例:daz du kein dinc ûf <u>solt schieben</u>. (古川, 1990, p. 278) 独:dass du kein Ding <u>aufschieben soll.</u>日:君がその事態を先延ばしにするべきではないということ。）しかしこれは、正式な語順として確立されていたものではなく、語調上、表現心理上などの理由によって、たまたまその語順になっていたにすぎない(古川, 1990, p.278)。すなわち中高ドイツ語の時点においても、古高ドイツ語と同じように従属節の動詞群の位置はかなり自由なものといえる。

8. 初期新高ドイツ語から見た枠構造

初期新高ドイツ語の時期から、枠構造が着実に出来上がってきた。15世紀の初期新高ドイツ語

[11]出典:斎藤治之, 1994,「古高ドイツ語における枠構造について」

の時代に広まった文献の多くは、必ずしも口頭での情報伝達を前提とはしていなく、黙読ないしは理解を確実とするために書かれたものが多いものとされている。既に15～6世紀では「書くように喋る」ことが広まり、反対に「喋るように書く」ということが知識人や、文法家から批判されていた。この時期に従属接続詞が発展したことにより、枠構造、複文を多用した複雑な文章が広まった。複雑な構造を理解できることこそが一般民衆と区別する社会的ステータスとされていた。

9. 中期オランダ語から見た枠構造

まとまった文章として出てきたのは中期オランダ語からで、古オランダ語は、ラテン語文献の中に地名、人名が散見されているにすぎない。中期オランダ語の文献を見てみると、この時代から既に従属節では右枠内に動詞群が来ていて、今日のオランダ語の語順と同じものが見受けられる（中期蘭：Dat hi den scijn mochte gedogen.(Colette, 1993, p.21) 蘭：Dat hij de gloed kan verduren.日：彼が灼熱に耐えられうること。）。しかし、少なからずドイツ語と同じ語順も多く見られ、この時代のオランダ語もまた、動詞群の語順に関して揺れが起きているようである。

10. おわりに

オランダ語の従属節の動詞群の語順に関しては、5. 節で見た限り、過去分詞形が語順に何かしらの影響を与えていることが考えられうる。

また、歴史的な面で見ると、ドイツ語の右枠の語順には初期新高ドイツ語の時代が最も強かったものと思われる。その時代に、オランダ語にはないような「書くように喋る」という社会風潮から、規範文法として会話語と文章語で動詞群の違いを与えなかったのではないであろうか。動詞群の語順ではないが、オランダ語が枠外配置が頻繁に起こり、ドイツ語の前置詞句の枠外配置があまり起こらないのも、初期新高ドイツ語の「書くように喋る」という方針の名残からであると思われる。

今回ほとんど触れることはなかったが、低地ドイツ語において、オランダ語の語順と同じものが見受けられたので、今後は低地ドイツ語から見ていく必要性も出てくるであろう。

13. 参考文献

古川尚雄, 1990,『英独比較語学』, 広島文教女子大学英文学会
浜口嘉一, 1969, 「副文における話法の助動詞の語順（Ⅰ）」,『名古屋大学教養部「紀要」』, 13号, pp103-121
浜口嘉一, 1970, 「副文における話法の助動詞の語順（Ⅱ）」,『名古屋大学教養部「紀要」』, 14号, pp48-66
橋本郁雄, 1989,「ドイツ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編,『言語学大辞典 第2巻 中 さ-に』, 三省堂, pp.1189-1214
河崎靖, 1944,「統語変化の方向性―ゲルマン語から古高ドイツ語にかけて―」
相良守峯, 1972,『ドイツ語学概論』, 博友社
桜井隆, 1988,「オランダ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編,『言語学大辞典 第1巻 上 あ-こ』, 三省堂, pp.1078-1085
斎藤治之, 1994, 「古高ドイツ語における枠構造について―Nokter における動詞の不定形と他の文肢との位置関係及び枠構造外配置の諸要因―」, 『獨逸文學』92 巻 pp66-84
清水誠, 2004,『現代オランダ語入門』, 大学書林
須澤通・井出万秀, 2009,『ドイツ語史 社会・文化・メディアを背景として』, 郁文堂
Colette M. Van Kerckvoorde. 1993. *An Introduction to Middle Dutch.* de Gruyter Mouton.
N.van den Toorn-Danner（井東猛訳）, 1990,『nederlands voor japanners』, 日蘭学会
Werner Abraham. 2005. *Deutsche Syntax im Sprachenvergleich*. Stauffenburg Verlag.
W. Haeseryn, K. Romijn, G. Geerts, J. de Rooij, and M. C. van den Toorn. 1997. *Algeneme Nederlandse Spraakkunst BAND1*: Wolters Plantyn.

W. Haeseryn, K. Romijn, G. Geerts, J. de Rooij, and M. C. van den Toorn. 1997. *Algeneme Nederlandse Spraakkunst BAND2*. Wolters Plantyn.
Yolande Spaans, 2009,『実用オランダ語文法 A PRACTICAL DUTCH GRAMMAR』, 日蘭学会

略号一覧

定:定動詞　不定:不定詞　過分:過去分詞

接:従属接続詞　関:関係代名詞　前:前置詞　前句:前置詞句